

多面的な視点で考える 持続可能な学校

子どもや保護者・地域にとって不可欠な存在である学校が、
今後も、質の高い学びの場であり続けるために、
教育委員会は、どのような視点で学校や教員の教育活動を支援すればよいのだろうか。
本特集では、これからの安心・安全で持続可能な学校のあり方を、
関係者の対談や実践事例を通して、様々な視点から考えていく。

滋賀県彦根市立
佐和山小学校
「そうじ革命」



学校文化
の醸成

安心・安全

保護者との
信頼関係

地域連携

神奈川県
横浜市教育委員会
「働き方改革通信：
Smile」



子ども
主体

主体的・
対話的で
深い学び

学びの保障

教員の
指導力
向上



福島県立
ふたば未来学園
中学校・高校
「未来創造学」の
フィールドワーク

学校の自走

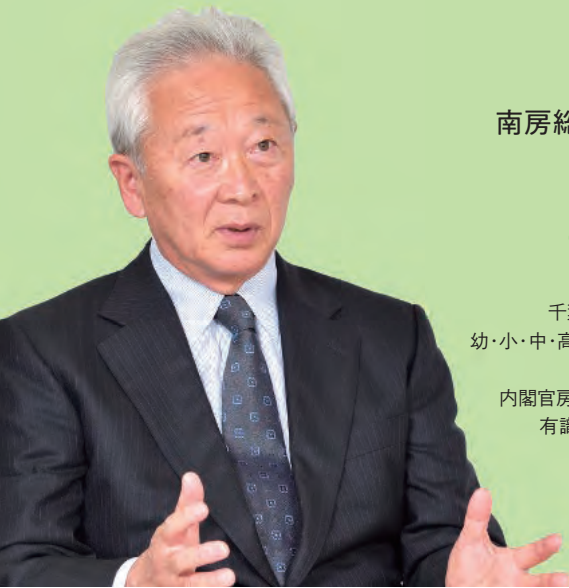
ICT
活用

働き方
改革

教育委員会
の支援

子どもも教員も安心・安全で、主体的に学ぶ学校づくりに向け、教委は支援を

コロナ禍に象徴されるように、社会環境や自然環境の変化の予測が難しい今、子どもや教員の安心・安全を担保した上で、持続可能な学びを実現していくことが求められる。教育委員会と学校は、どのように連携して、そうした教育活動をつくり上げていくべきなのか。地方自治体の教育長と中学校校長が、この1年間で浮き彫りになった課題や懸念を改めて整理し、これからの教育について語り合った。



千葉県
南房総市教育委員会
教育長

三幣貞夫

さんべい・さだお
千葉県内の小学校教員、
幼・小・中・高の園長・校長を歴任。
2010年度から現職。
内閣官房教育再生実行会議の
有識者メンバーも務める。



東京都
江戸川区立二之江中学校
校長

茅原直樹

かやはら・なおき
江東区立深川第七中学校、
東京都北区教育委員会事務局
教育指導課長等を経て、現職。
東京都中学校長会副会長等も
歴任。



目標を焦点化して、 教育活動や業務の精選を

— 最初の緊急事態宣言が発出されてから約1年が経ちました。その間、学校の役割などについて、お考えになったことをお聞かせください。

三幣 房総半島の南端に位置する本市は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受ける前の2019年に、2度の台風被害に遭いました。台風が去った翌日には、教員が手分けをしてすべての子どもの家庭を訪問し、全員の元気な姿を確認した時には心から安心しました。当時の経験を通じて、子どもの安心・安全を守ることが学校の努めであることを改めて感じました。その考えは、コロナ禍

にある現在も同じです。

茅原 本校でもコロナ禍では、何事においても子どもを守ることを最優先に判断しています。加えて、その時々可能な教育活動を工夫し、いかに社会性を育むかが重要だと認識しています。昨年度の新入生、今の2年生の入学後の様子をしばらく見ると、小学校時代に最上級生として振る舞う機会が少なかったからか、どこか幼い印象を受けました。学校行事を始めとする特別活動などが制限される中、人間関係を築く力が弱くなったと感じます。そうした経験不足を補いながら、様々な事情で傷ついた子どもの心に寄り添い、ケアすることが課題です。

三幣 大人に気を遣い、苦しくても何も言わない子どももいます。そう

した子どもを見逃さずに支援することも重要でしょう。本市では、昨春の臨時休業中、給食センターが用意した給食を、教員が各地区の集会場などで手渡す「おうち給食」を行いました。自宅で長時間過ごす子どもの生活習慣の確立や、育児にあたる保護者の疲労軽減がねらいです。教員に会えたことを涙を流して喜ぶ子どももあり、少しでも子どもの心に寄り添えたのではないかと考えています。

茅原 臨時休業はないことが望ましいですが、分散登校時には平時に不登校だった子どもが登校する姿も見られました。そうした少人数であれば授業に参加できる子どもに何ができるのか、今後の教育活動を検討中です。— 科学技術が加速度的に進化し、コ

コロナ禍の収束だけでなく、社会全体の未来像を具体的に描くことが難しい時代を迎えています。そうした中で、子どもが安心して学び続けられる学校であるために、どのような教育活動が求められるとお考えですか。

三幣 これまで当然とされてきたことを漫然と繰り返すだけでは立ち行かず、新たな時代の学校教育への意識転換が求められると考えています。私は校長会で「教育の目的を見失わずに、何ができるかを前向きに考えよう」と伝え続けています。昨年度、中学校の修学旅行を、地域を再発見する活動に切り替えた際、修学旅行そのものの意義や、通例となっていた行き先の訪問の意味などを丁寧に議論しました。子どもが「コロナ禍の影響で十分に学ぶことができなかった世代」と後々言われることのないよう、知恵を出し合い、今できる教育活動に努めていきます。

茅原 本区の教育長も、「この時期に教育を受けたからこそ、人に優しくできる思いやりのある子に育てましょう」とおっしゃいました。私たち教職員もそれを強く意識しています。本校でもこの1年、慣例化していた教育活動の目的に改めて目を向け、活動の見直しや焦点化を図ってきました。その繰り返しによって、活動を客観視す

る意識が教員間に根づきました。感染予防対策の負担が増え、苦しいからこそ、業務の根本的な精選が必要です。

三幣 学校だけですべてを担おうとせず、外部連携も強化すべきでしょう。本市では学習塾などの費用を助成する事業を実施し、子どもの学力を支えています。また、不登校の子どもへの支援は教育相談センターが担い、教室で支援が必要な子どもに対応するスクールカウンセラーや特別支援教育支援員の配置を充実させ、教員の負担軽減に努めています。

茅原 中学校の場合、部活動指導の負担軽減も大きな課題です。部活動

指導員の雇用など、外部人材を活用する場合は学校教育に関する専門性の担保が必要ですが、民間委託も含め、これまで以上に地域の力や人材の活用のあり方を検討していきます。

どのような状況であっても主体性を育む学びを追究したい

—持続可能な学校づくりには、どういった視点が必要でしょうか。

三幣 これまでの実践を土台に、主体的・対話的で深い学びを始めとした教育内容を充実させる視点で、教育活動を見直す必要があります。さらに、

教育委員会も学校も、
新たな時代への意識転換が
求められていると感じます。

三幣



図 安心・安全で持続可能な学校づくりに向けて

コロナ禍や自然災害を受け、子どもや学校に見られる課題、懸念

集団活動の制限による、子どもの社会性の不足

発達段階に応じた経験ができないことの子どもの影響

子ども・教員とも、長期にわたるストレスによる心身への影響

感染対策などが加わって負担が増大し、学校現場が疲弊

従来とは異なる学びの形の可能性を見いだす動きも……

学校では、これまでの教育活動の見直しや精選が進む

臨時休業明けに、これまで不登校だった子どもが登校する姿も

持続可能な学校づくりに向けて、取り組みたいこと

教育委員会の支援の下での学校の自走化

教育活動の目的の焦点化や精選を推進

外部人材を積極的に活用した持続可能な人材戦略

学校と保護者・地域との信頼関係の構築

※取材を基に編集部で作成。

環境の変化を受け止めて、
主体性を育む学びを
再構築していきます。

茅原



災害やコロナ禍といった困難な状況でも前向きに進む力が欠かせないことを再認識したので、非認知能力の育成を一層重視したいと考えています。そうした力を身につけた人材が、いざ地域を支え、地域の基盤である学校も支えてくれると信じています。

茅原 本校では15年前から机をコの字型に配置し、4人でのグループ学習を中心とした授業を行っています。生徒同士が顔を見合いながら緊張感を持って授業に臨み、ノートを見せ合ったり、「分からないから教えて」といつでも言えたりと、生徒同士の様々なかかわりによって学びを深めることが目的です。その授業形態には、「集団、社会性、直接的な対話」といった学校が担う重要な要素があり、これを続けることが持続可能な学校づくりにつながると考えています。空き教室が少なく、少人数指導が難しい中、生徒の誰もが持つ「授業を理解したい」という思いに応え、学びを保障するために始めた方法ですが、今はコロナ禍でコの字型の配置ができません。当初はその状況に戸惑いましたが、2021年度は、これまで培ってき

た課題設定や発問の工夫を生かして主体的に学ぶ力の育成に挑戦します。

三幣 「学びは、まねることから始まる」と言われますが、それをまさに具現化した実践ですね。本市では、書く活動によって思考力を育む指導を行っています。多様な子どもが互いのスタイルを参考にできる学び合いは、主体性を育む観点からも効果的です。ノートの見せ合いなどは、すぐにでも授業に取り入れられますね。

教委は、学校が主体的に判断し、 自走していくための支援を

——持続可能な学校づくりを進めるためには、教育委員会と学校との関係も重要になります。

三幣 本市では東日本大震災を機に、校長が何事も判断する、いわば学校の「自律と自立」を基本方針に据えました。コロナ禍でもその方針は継続しています。子どもや地域の状況を最もよく知っているのは、学校だからです。教育委員会の役割は、各校が自校の状況に応じて適切な判断を迅速に下せるよう、広範囲から情報を集め

て学校に伝えるとともに、必要なりソースを提供することです。学校が安心して自走できるよう、普段から校長とのコミュニケーションを密に取り、判断に迷ったり、状況が厳しくなったりした際に、教育委員会に相談しやすい関係づくりにも努めています。

茅原 教育委員会のそうした支援は、学校現場にはとても心強いものです。教育委員会との関係構築では、本区の中学校長会会長を務めてきた私は、例えば、教育委員会から新たな施策が示された際には、各校から出てきた質問や意見などを取りまとめて教育委員会に伝え、その回答を全校で共有できるようにしました。

三幣 そうした意見を取りまとめる仕組みは、教育委員会としてもありがたいです。私も学校との関係において、何か問題が起きた際に教育委員会が矢面に立つことをいとわないようにし、学校行事の中止など、学校のやむを得ない判断については極力、教育委員会から保護者に情報発信しています。学校が保護者や地域と信頼関係を築くことは、教員が安心して教育活動を行うために不可欠だからです。

茅原 東京都では、教員採用選考の倍率の低下とともに、若手教員の指導力の向上が大きな課題となっています。私は新任時代、保護者や地域の人々が厳しくも温かく受け入れてくれたことで、教員として成長できました。そうした観点からも、地域との信頼関係を築くことが大切だと思います。

三幣 本市では台風被害やコロナ禍において、教員が家庭や地域の安全を守るために懸命に行動する姿を見て、保護者や地域の学校に対する思いが、よい方向に変化しつつあると感じました。困難な時代ですが、地に足を付けて、変化を恐れず果敢にチャレンジしていきましょう。